

日本新生児成育医学会 2019年度 第3回理事会 議事録

日時：2019年5月10日（金）15：00～17：00

場所：東京八重洲ホール 3F 302 〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-4-13 新第一ビル

出席：中村友彦（理事長）、茨 聡、河井昌彦、日下 隆、河野由美、長 和俊、中西秀彦、長谷川久弥
早川昌弘、飛弾麻里子、細野茂春、森岡一朗、山田恭聖、与田仁志、和田和子、和田雅樹（各理事）
猪谷泰史、北島博之（監事）、大木 茂、松本 敦、芳本誠司（各幹事）

欠席：高橋尚人、福原里恵、水野克己、渡部晋一（各理事）

（敬称略）

議事：

1. 理事長報告

1) 年会費請求の件

全会員2,862名中、名誉・功労会員117名を除く2,745人のうち延べ1,460人（53%）（4月24日現在）より納入され、代議員費を合わせて14,099,000円の会費納入となった。年度末まで納付の催促を行う予定である。

2) 次回理事会の件

第4回理事会は8月9日（金）14：30～17：00に東京八重洲ホール302にて開催する。

3) 通信理事会議決結果報告の件

決議事項1件（サーベイランス事業新規申請「新生児偽性低アルドステロン症」について）の内容確認、その他連絡事項が5件あった。

4) 公益法人化の件

5月8日の公益認定等委員会で審議され5月22日に答申がある。

5) 非医師入会の件

非医師1名の入会について報告された。

6) 日本産科婦人科医会からのアンケート調査報告の件

「産科婦人科勤務医の待遇改善と女性医師の就労環境に関するアンケート調査報告」が送付されてきたため資料が回覧された。

7) 第28回母乳育児シンポジウム後援の件

今年も依頼があり後援を行った。

8) 第9回産科医療補償制度再発防止に関する報告書の送付の件

日本医療機能評価機構より送付されてきたため資料が回覧された。

9) 日本医学会加盟申請の件

今年も加盟できなかった旨報告があった。

10) 2019年度一般会計途中経過報告の件

資料は1～3月末日時点での集計結果が報告された。

2. 協議事項

第1号議案：業務委託契約見直しの件（中村理事長）

公益認定の申請を行うにあたり、メディカ出版への業務委託契約の内容について詳細に取り決める必要が生じたため、内閣府提供のひな型を踏襲して、業務委託契約書・覚書、算定基準書、事務局員の選任と任命に関する覚書、施設利用に関する覚書案が資料として示された。業務の内容は従来と変わらないが、新たに施設利用料を設定し、年間で事務局に支払う合計額は750万円となる。上記について全会一致で承認された。

第2号議案：年会費増額の件（中村理事長）

1993年より約25年間、会費を値上げせず据え置いたままとしてきたが、学術集会の開催、機関誌発行、若手新生児科医育成を含む各種委員会活動、広報活動等の充実に伴い財政需要が大きくなっている。現行の年会費では慢性的な財源不足が続く見通しのため、年会費を増額することが全会一致で承認された。消費税増も予想されているため、4,000円値上げし12,000円とすることで、定時社員総会で承認を得ることとなった。同時に経費削減方法を検討していく予定である。

第3号議案：学会誌の医療統計に関する専門査読員の任用の件（河井理事）

学会誌の統計専門委員を任用することとなり、酒井理恵先生が承認された。1件あたり15,000円でご対応いただき、どの程度の本数を依頼するかは今後検討予定である。

第4号議案：第67回（2022年）学術集会会長選出の件（中村理事長）

細野理事から立候補書類を受け取った旨報告された。正式には11月の理事会で決定予定である。

第5号議案：PAS Meeting 2020のシンポジウム推薦の件（中村理事長）

小児科学会から依頼があった標記の件について、早川先生から提案があり、学会から以下の内容で推薦することとなった。

テーマ：新生児に対する幹細胞/再生医療

モデレータ：Masahiro Hayakawa (Nagoya Univ, Japan), Michel Cotton (Duke Univ, USA)

演者候補：Dr. Bernard Thebaud, Ottawa Hospital, Canada (CLD), Dr. Tracy Grikscheit, Children's Hospital Los Angeles, USA (NEC etc), Dr. Dezhi Mu, Sichuan University, China (HIE), Dr. Yoshiaki Sato, Nagoya University, Japan (HIE, CLD)

第6号議案：編集委員会：投稿規定変更の件（河井委員長）

これまで郵送で行っていた投稿原稿の受付と査読を6月中旬よりメールで行うこととなり、投稿規定の改訂案が承認された。

第7号議案：学術集会一般演題の倫理審査の件

学術集会における演題登録時の倫理審査について、必須とすべきかが協議された。学会誌への投稿は1例の症例報告に限り倫理審査が不要だが、それ以外は必須としている。演題が減ることも危惧されるため、関連学会の動向等を見ながら継続審議となった。

第8号議案：第63回学術集会会計報告の件（与田会長）

会計書類がまとまり、報告された。収入の部の合計71,459,350円のうち、会費収入は2,000万円と、総収入の約3分の1となった。支出の部の合計は67,485,562円となっていて、看護学会とは会場費を折半しているとの説明があった。余剰金3,973,788円のうち、法人税等負担額の61,300円、消費税等負担額の70,000円を一般会計に繰り入れ、3,842,488円が学会補助金口座に返納されることで承認された。

3. 第64回学術集会の件（茨会長）

11月27日～29日でSHIROYAMA HOTEL kagoshimaにてIntact Survivalをテーマに行う。会場では、ドクターヘリの展示を行う。特別講演では「日本と米国における周産期医療の発展」と題し、池ノ上克先生（宮崎大学）、橋本武夫先生（九州新生児研究会）、Feizal Waffarn先生（UC Irvine, School of Medicine）に講演をお願いする。招請講演はCherry C. Uy先生（UC Irvine School of Medicine）にアメリカでの呼吸管理の現状を、Girija Natarajan先生（Children's Hospital of Michigan）に脳低温療法の拡大適応の話をしていただく。例年とは違い、1日目の夕方に定時社員総会を行い、2日目の夜に懇親会を行う予定である。

4. 第65回学術集会の件（長 会長）

2020年7月18日（土）～20日（月）ロイトン札幌と、札幌市教育文化会館会場で「北の大地で新生児医学・医療の未来を語ろう」をテーマに行われる。

5. 第66回学術集会の件（長谷川会長）

2021年11月11日（木）～13日（土）にパシフィコ横浜で開催予定である。

6. 各種委員会報告

1) 感染対策予防接種委員会（森岡委員長）

日本におけるパブリズマブの使用に関するコンセンサスガイドラインが作成され、4月2日に日本小児科学会のHP、4月3日に日本新生児成育医学会ホームページに公表された。

2) 教育委員会（早川委員長）

- ・第6回医学生・研修医向けNICU入門セミナーは5月18日（土）～19日（日）に、戸津五月委員（東京女子医科大学母子総合医療センター 新生児医学科）を実行委員長として、ホテルクラシア晴海（東京都）にて行う予定である。
- ・第23回教育セミナーは8月29日（木）～31日（土）に松本敦委員（岩手医科大学小児科）を世話人として、ホテル森の風鷺宿（岩手県岩手郡雫石町）にて行う予定で、参加者を募集中である旨伝えられた。
- ・3月5日にZoomミーティングにてWeb会議を行った。問題なく会議が行えた。

3) 社会保険委員会（和田委員長）

- ・2020年度診療報酬改定について当学会からの提案は「プレネイタルカウンセリング加算」とした。他学会との共同提案としては、血清コレステロール測定、在宅人工換気療法、在宅酸素飽和度測定、分割血液製剤加算、遺伝学的検査がある。遺伝学的検査は人類遺伝学会を中心に対象疾患をまとめていただき、92疾患（ヌーナン症候群、CHARGE症候群、骨形成不全症など）が候補とされた。5～6月に内保連内での最終検討後、7～8月に厚労省のヒアリングが予定されている。

4) 学会将来構想委員会（代：与田理事）

- ・第122回日本小児科学会会期中に学会将来構想委員会委員、診療委員会委員、中村理事長、中西理事、大木幹事、荒堀代議員が参加する拡大委員会を開催した。今後、全国のNICU施設の人員調査を行うこと、それをういて新生児医療体制の将来ビジョンを作成することが決定し、たたき台を作ることになった。また、次回の日本周産期・新生児医学会で行う働き方改革のシンポジウムの内容を検討した。
- ・次回の委員会は日本周産期・新生児医学会の会期中の予定である。

5) 利益相反委員会（山田委員長）

利益相反に該当する案件はなかった。

6) 倫理委員会（代：飛弾委員）

4月19日に第1回倫理委員会を開催し、第64回学術集会時の11月27日（水）午後2～5時に事例を通して『「児の最善の利益」とは何かを多職種で考える』をテーマにワークショップを開催し、例年通り家族を交えたグループワークを行うこととなった。小児科専門医共通講習の演題については板井孝彦郎先生（宮崎大学医学部社会医学講座 生命・医療倫理学分野教授）を推薦した。最終日に講演が行われる予定である。

7) 医療の標準化委員会（中西委員長）

特になし。

8) 災害対策委員会（茨委員長）

「NICUの災害対策などに関するアンケート結果」についての論文を学会に投稿中である旨報告された。日本小児科学会より災害支援に関するアンケートの回答依頼があり、4月末に回答した。

9) 学術委員会（長谷川委員長）

学会論文賞受賞者には、竹内秀輔氏（茨城県立こども病院新生児科）「超低出生体重児の出生時気管挿管確認に対する超音波検査」（第30巻第2号、66～71頁掲載）が選出された。学術奨励賞は応募を4月26日で締め切ったため、5月に選考予定である。

10) 医療の質向上委員会（長委員長）

- ・稀有疾患（病態）サーベイランス事業については、「新生児血球貪食性リンパ組織球症（HLH）および新生児ヘモクロマトーシス」34件、「先天性トキソプラズマ感染症」が11件、「サイトメガロウイルス（CMV）

関連敗血症様症候群」が9件となっている。新規で「新生児偽性低アルドステロン症」(藤岡一路先生ご担当)が追加され、2019年3月31日～2022年3月31日まで調査が行われる。

- ・フォローアップ事業については、平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 厚生労働科学特別研究事業「超低出生体重児の成人期に達するまでの慢性疾患群合併の実態把握と支援方策の確立に向けた研究(H30-特別-指定-017)」班(河野班)が3月までに収集したデータの解析中である。

11) 産科医療補償制度対応委員会(細野委員長)

母子早期接触について、関連学会に意見を求めているところである。

12) 薬事委員会(飛弾委員長)

小児医薬品の実用化に資するレギュラトリーサイエンス研究に関する資料が回覧された。

13) 調査研究審査委員会(高橋委員長)

特になし。

14) 男女共同参画推進委員会(河野委員長)

特になし。

15) 診療委員会(与田委員長)

- ・医療供給体制に関するアンケート結果が日本小児科学会雑誌に投稿予定
- ・重症先天性心疾患スクリーニングに関するアンケート結果については日本小児科学会で講演し、今後、日本小児循環器学会でも発表予定である。日本産婦人科医会へ報告(寄稿)する他、日本周産期・新生児医学会雑誌か日本小児科学会雑誌へ投稿予定である。
- ・第122回日本小児科学会開催中、移行支援委員会(旧小児慢性疾病患者の移行支援ワーキンググループ)に出席した。「疾患別 移行支援ガイド」を制作予定だが、新生児成育医学会は臓器別の学会ではないので、実質的な作成は本学会ではできないとの結論に達した。
- ・学会将来構想委員会に協力する形で「働き方改革」に対応するための資料作成に参画することになる。

16) 広報委員会(水野委員長:ご欠席)

学会ホームページのアクセス数と更新内容が報告された。

17) 国際渉外委員会(日下委員長)

- ・国際渉外委員会より、3学会合同学術集会へ岩井委員が参加することとなった。
- ・IPOKRATES JAPAN 2019で学会のTax Numberを使いたいとの依頼があり、検討を行うこととなった。
- ・3学会合同学術集会について今後、継続するかどうかを協議予定である。また、韓国・台湾からの招聘について学会で内規を作成することとなった。

18) 学会誌編集委員会(河井委員長)

投稿規定の変更については次号の学会誌で案内予定である。

19) 総務委員会(和田委員長)

特になし。

20) 医療安全委員会(代:長谷川委員)

- ・トラックケア(新生児用)の破損事例があり、パンチングに問題があったとの報告があった。
- ・第64回学術集会で医療安全委員会セミナーを開催予定である。

21) その他

特になし。